

問題文は一、二の二題からなっています。配点はそれぞれ50点です。

一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

※引用文は著作権法にもとづき割愛します

【問一】傍線部(ア)～(オ)の漢字をひらがなに直しなさい。

【問二】傍線部(1)～(5)のカタカナを漢字に直しなさい。

【問三】本文中の空欄 A 〃 C に入る語として最も適当なものを次の①～⑥の中からそれぞれ一つ選びなさい。(同じものは二度選ばないこと)

- ① このように ② しかし ③ 一方 ④ そして ⑤ たとえば ⑥ ただし

【問四】二重傍線部 X 「意味の漂白」の説明において、最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① ことばの意味が変化する過程で、当初の意味の一部が失われること。
② 視聴者がメディアで使われた言葉を受動的に捉える過程で生まれたガインであること。
③ 日本人があらゆる言葉を縮めて使うこと。
④ 社会における大学の役割を理解する枠組みを変化させること。
⑤ ことばの「採用」と「循環」の間で起こること。

【問五】二重傍線部 Y 「意味をはがす」でも、そのことばに与えられていた否定的意味をはがすとあるが、最も適当なもの①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 略語にカタカナを使うことでことばを楽ししいイメージに変化させること。
② 略語は本来ことばのもつ意味を全て消してしまうこと。
③ ことばを略すことは、ことばのネガティブな面を減らしイメージを変化させること。
④ ことばを略すことで本来のことばの意味が消えると、新たに肯定的な意味が出現すること。
⑤ ことばを使用する人々の権力関係によって、ことばの意味が肯定的に捉えられること。

【問六】二重傍線部「否定的な意味をはがす」ことに危うさを感じるのはなぜか、最も適当なものを次の①～⑤の中から

一つ選びなさい。

- ① 「〇〇活」のようにことばを縮めて使うことは危険であること。
- ② 「〇〇活」のように二つ以上のことばを組み合わせた略語は罪悪感のケイゲンに繋がる危険性があること。
- ③ 「就活」「婚活」「終活」のように「パパ活」ということばも気軽に使う危険性があること。
- ④ 「就活」「婚活」「終活」のように「パパ活」も類似的活動と理解され、活動を助長させる危険があること。
- ⑤ 「就活」「婚活」「終活」のように「パパ活」ということばを未成年が使うようになること。

【問七】本文の内容に最も合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 「意味の漂白」によって意味の一部が失われたことばが社会を変化させる場合がある。
- ② 略語は本来のことばの意味を変化させるため、ことばを縮めて使用しないほうが好ましい。
- ③ 日本人はことばを何でも略す傾向があり、その過程でことばの意味が変わるため、外国人には伝わりにくい。
- ④ 日常で略語を使うことの危険性について理解し、なるべく使わないようにした方が良い。
- ⑤ メディアで使われたことばを視聴者が取り入れる際に視聴者側の受け取り方で「意味の漂白」が起きる。

【二】 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

※引用文は著作権法にもとづき割愛します

【問一】 傍線部(ア)～(オ)の漢字をひらがなに直しなさい。

【問二】 傍線部(1)～(5)のカタカナを漢字に直しなさい。

【問三】 本文中の空欄 A ～ C に入る語として最も適当なものを次の①～⑥の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。(同じものを二度選ばないこと)

- ① したがって ② もっとも ③ いずれも ④ どちらかは ⑤ ところが ⑥ やはり

【問四】 二重傍線部 X 「地域社会がなんら問題視せず、かえって問題と取り組むことに抵抗するとしても、社会の問題は組織にとって関心事たらざるをえない。」とあるが、その理由について筆者はどのように述べているか、最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 地域社会が問題視していなければ、企業や大学、病院はその問題に取り組む必要がないから。
② 地域社会が問題視せず、かえってその問題に取り組むことに抵抗しているのならば、その状況を変えない方が良いから。

- ③ 健全な企業、大学、病院は、不健全な社会では機能できないから。
④ 健全な企業、大学、病院は、不健全な社会のなかでもマネジメントによって独立を保つ必要があるから。
⑤ 組織のマネジメントが社会の問題を作り出しているから。

【問五】 二重傍線部 Y 「故意であろうとなかろうと、自らが社会に与えた影響については責任がある。」とあるが、筆者の考えとして最も**適当ではない**ものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① どのような影響であっても組織が社会に与えた影響はその組織に責任がある。
② ここでいう影響とは、将来的に社会に対する攻撃であるときみされるものである。
③ ここでいう影響とは、最終的に組織が高いダイショウを払うことになるものである。
④ その当時は社会が問題視していなかった影響でも、時代の変化によって責任を問われることがある。
⑤ 世論が問題視していない影響であれば、当然、その影響を与えた組織に責任はない。

【問六】二重傍線部 Z 「ここにおいて理想とすべきアプローチは、影響を取り除くことを、そのまま事業にすることである。」

とあるが、その理由として最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 影響を取り除くことを事業にすれば、社会からの批判が減るから。
- ② 影響を取り除くことを事業にすれば、その地域での雇用を増やせるから。
- ③ 影響を取り除くことを事業にすれば、利益が増えるから。
- ④ 影響を取り除くために元となっている活動を中止することは殆どの場合不可能であるから。
- ⑤ 影響を取り除くために元となっている活動を中止することは社会の要求であるが、その場合、企業は別の事業を起こさないと存続できないから。

【問七】本文の内容に最も合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 組織はそもそも社会のなかに存在するのであり、その社会に影響を与えた責任は組織が負わねばならない。
- ② 組織が社会に対して与える影響には、時代によっては理解されないものもあるが、だからと言ってその取り組みをやめる場合には将来的にリスクを負うこともある。
- ③ ある組織がいかにして社会的責任を果たすかはマネジメントによって変わるのであり、時代の要請を受けるものではない。
- ④ 社会や環境に悪い影響を与えると、組織自体も悪いものに見られるので注意する必要がある。
- ⑤ 社会や環境に悪い影響を与えても、その除去のために新事業を起こせば利益が得られる。

問題は以上で終わりです。